



レーガン大統領のパーティにて
(右：ゴルバチョフ元大統領 左：レーガン大統領)

「保育」の原点

29

『トランプ氏とレーガン大統領の時代』

文 葛西得男

Text by Tokuo Kasai

米国そして世界中でドナルド・ジョーン・トランプ氏の第45代アメリカ合衆国大統領就任と、その発言と動向に注目が集まっています。

私はアメリカを訪問した中で何度かトランプ氏にお目に掛かっています。彼もまだ若かった頃のことです（彼が確か40歳代の頃だったと思います）。私が思うにトランプ氏が一番輝いていた時代は1980年代頃だったのではないかと思います。そう、私がお会いできた頃が一番夢も多く充実されていた時代では無かったか？

現在トランプ氏は大統領となりましたが、そんなに幸福を感じてはおられないのではないかと、そう思えてならないのです。英国の経済学者アダム・スミスの「地位と権力とお金すべてを手に入れば幸福が逃げ去ります。そんな言葉を思い出します。1980年代のニューヨーク五番街(5th Avenue)のティファニー本店の横にトランプタワーが出来たのがこの時代の事です。私がレーガン大統領とよくお会いしていた頃で、レーガン氏主催のパーティの席でよくトラン

プ氏にお目に掛かったのです。背が非常に高く、甘いマスクで髪の毛はターク・ブラウンで今のようなブロードでは無かったように記憶しています。その頃も毎日のようにマスコミに取り上げられ、我々を楽しませてくれた、まさにアメリカのヒーローでした。

トランプ氏が一番好きな大統領はレーガン大統領だと発表されたことは有名ですが、トランプ氏がビジネス界で活躍していたのはまさにレーガン政権時代ではないかと思うのです。様々な事業を拡大展開しましたが、レーガン時代が終焉を迎え、直接関係は無いにしろ、アトランティックシティでのカジノビジネスの失敗など、人生で初めてトランプ氏はどん底を味わう事になります。

日本では一度失敗すると、そこからカムバックする事は非常に難しいですが、トランプ氏は90年代後半には見事にカムバックしてきて、現在、大統領にまで上り詰めました。まるで映画『ロッキー』のようなアメリカンドリームそのものなのです。

トランプ氏が他の成功者と違うのは一度地を這って底を見た男だということ

とです。そして地から這い上がって来た男だということです。あの経験は彼を強くした事でしょう。もう一度トランプ氏には「強いアメリカ」「夢のあるアメリカ」を作って欲しいのです。一生懸命に勉強すれば良い大学で学べ、良い仕事に就ける。大統領になるのも夢ではない。

トランプ氏には誰もが思う素直な願い、難しい理屈ではない、全世界の人々が信じてきたアメリカンドリームをもう一度実現して欲しいと思います。

Profile

1950年12月8日大阪に生まれる。
1972年、追手門学院大学卒業後、米国ボストンカレッジに留学。
1975年に帰国後、アップリカ葛西に入社。営業部、副社長、社長を経て、1996年に社会福祉法人 松福会 理事長に就任。
松福会は社会福祉法人として高齢者介護施設「アップリケア」と認可保育園マザーシップ保育園を運営している。
アップリカ葛西 副社長時代に国連UNEP 環境計画のスペシャルアドバイザーとして子供たちのために地球環境問題を考えるプロジェクトに参画し、世界の賛同者と世界会議、イベント普及活動などを行いながらその人脈などを広げ現在に至る。

